

第128回経営協議会議事録

日 時 令和4年2月14日（月）15時～16時50分

場 所 第一会議室

出席者 (学外委員)

大家委員、門脇委員、川上委員、小間委員、鈴木委員、長友委員、端山委員、望月委員、森口委員

(学内委員)

田野学長、小花理事、阿部理事、植村理事、三浦理事、西岡学域長、西野研究科長
(オブザーバー)

岡山理事、村松副学長、山口副学長、坂本副学長、吉海監事、名取監事

議 題

議事録報告承認

1. 第126回経営協議会議事録報告承認 (資料①-1)
2. 第127回経営協議会(臨時)議事録報告承認 (資料①-2)

審議事項

1. 職員兼業規程の一部改正について (資料②-1～2)
2. 非常勤職員就業規則の一部改正について (資料③)
3. 令和4年度予算編成方針等について (資料④-1～6)

討議事項

1. 令和4年度予算内示を受けての本学の展望について (資料⑤)

報告事項

1. 危機対策本部からの報告について (資料⑥)

議 事

議事録報告承認 第126回経営協議会議事録、第127回経営協議会(臨時)議事録

田野学長より、第126回経営協議会議事録(案)及び第127回経営協議会(臨時)議事録(案)について説明があり、これを承認した。

審議事項 1. 職員兼業規程の一部改正について

三浦理事から、国立大学法人電気通信大学職員兼業規程について、新たに社外取締役への就任を可能とすること及びこれまで運用で行っていた兼業総報酬額及び兼業総時間数について規程に明記すること等について説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 社外取締役への就任を認めることについては、ニーズも増えており、実際に就任する教員にとっても人脈が増えることや共同研究の可能性を広げることができる等、とても良いことだと思う。しかしながら、報酬額や就業時間数についての制限を設けることに違和感がある。海外企業等は非常に高い報酬を呈示してくる場合があり、それはその者の業績が評価されたと考えるべきで、制限するべきではない。

また、社外取締役という仕事はそもそも週何時間の勤務という考えがない職であるので、本業に支障がないのであれば、形式的な数値基準は不要ではないか。

(学内委員) 本業に支障がないかどうかを判断する、そのための1つの基準として数値を規程に明文化するもの。一律に基準どおりに運用するものではなく、具体的な事情に応じて、本業に支障がないことを審査会で判断し、決定する。今後、経験値が積みあがってくれば、規程を改正するなどの対応をしていきたい。

(学外委員) 海外の企業の役員に就任する場合、経済安全保障の観点から審査はされるのか。

(学内委員) 安全貿易輸出管理の確認は行っているところであり、本件も含まれる。

審議事項 2. 非常勤職員就業規則の一部改正について

三浦理事から、障害者の雇用について、法定雇用率を遵守しつつ良い人材を安定的に確保していくため、障害者のうち優秀な人材については、雇用期間の上限の例外を国立大学法人電気通信大学非常勤職員就業規則に追加することについて説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 障害者の雇用を確保するという面では、期限を設けることは望ましいことではないので、今回の規則改正については良いことだと思うが、障害がない者の雇用期限についても、今後、考えていくことは必要である。

審議事項 3. 令和4年度予算編成方針等について

三浦理事から、令和4年度国立大学法人運営費交付金の予定額について報告の後、令和4年度予算編成方針等について説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 運営費交付金について、その算定に用いられる指標での評価は全体的には上がっており、喜ばしいことである。

一方、評価の低かった博士号の取得状況やダイバーシティへの取組については、学外に向けてコミットし、目標を確実に実現するような姿勢が必要である。なお、支出に関して、電気料金などの大幅な値上について触れているが、支出のコントロールは大変重要である。また、コロナの影響で来日できなかった留学生について、経営的な面からどのような問題があり、どのように対処していくのか伺いたい。

(学内委員) 評価が低かったものについては、大学の方針として、より明確な目標値をたて、きちんと対応していく。また支出については、執行部でも執行状況をこれまで以上に短いスパンで確認していきたいと考えている。

留学生については、本学では入国できない留学生がほとんどおらず、短期的な影響は小さいと考えているが、状況を見ながら対応したい。

討議事項 1. 令和4年度予算内示を受けての本学の展望について

田野学長から文部科学省からの令和4年度の予算内示を受けて、共創進化スマート大学の実現や本学の外部連携強化の取り組みなど関する今後の展望について説明があった。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 産学官連携については、何十年も前から行われて、一般的にあまり進んでいない印象がある。連携を推進しようとしても定着しないのはなぜかを考える必要がある。調布市と電気通信大学も連携を行っているが、その成果がどんなに小さなことであっても絶え間ない広報を行い、周囲の注目を集めていくことが重要である。今後も発展的な連携を行うために、電気通信大学とは率直な意見交換を行いたい。

(学外委員) 数理、データサイエンス、AIといった日本で不足しているIT人材を増やしていただきたい。同時に、様々な世の中の変化に対応できるフレキシブルなシステムを構築し実現できるような人材、デジタルアーキテクチャ人材、さらには、メタバースといった新しい技術を活用したビジネスの実現に貢献するような人材を育てていただきたい。

また、調布スマートシティについては、電気通信大学、調布市、地元の企業も含め共感するものに向けて取り組んだ成果を期待している。

(学外委員) AI人材育成については、国の政策であり、電気通信大学がデータサイエンティスト養成などを行うことになったのは良いことではあるが、社会課題の解決を行おうとすると学生では難しく、一度社会に出て働いてみることで問題を認識することができる。社会に出た人が大学に戻って学び直しを行える仕組みは考えているか。

(学内委員) 現在は夜間に社会人の受入れを行っているが、修士、博士課程については、日中でも社会人を受け入れる仕組みを作りたいと考えている。

報告事項 1. 危機対策本部からの報告について

田野学長から危機対策本部（新型コロナウイルス感染症対応）で前回の経営協議会以降に審議、決定した内容について報告があった。

[配付資料]

- ①-1. 第126回経営協議会議事録
- ①-2. 第127回経営協議会(臨時)議事録
- ②-1. 兼業規程改正の概要
- ②-2. 国立大学法人電気通信大学職員兼業規程の一部改正(案)
- ③. 国立大学法人電気通信大学非常勤職員就業規則の一部改正(案)
- ④-1. 令和4年度国立大学法人運営費交付金予定額一覧
- ④-2. 「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に係る本学が重点的に対応すべき指標について
- ④-3. 令和4年度予算編成方針(案) ※溶け込み版
- ④-4. 令和4年度予算編成方針(案) ※見え消し版
- ④-5. 間接経費等の活用方針(案) ※溶け込み版
- ④-6. 間接経費等の活用方針(案) ※見え消し版
- ⑤. 令和4年度予算内示を受けての本学の展望について
- ⑥. 危機対策本部からの報告について